

電気柵の設置及び管理のチェックシート

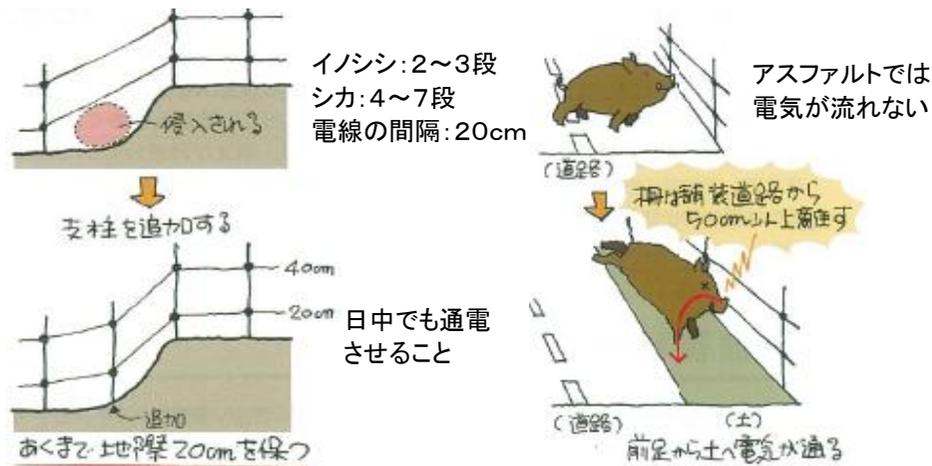
福岡県畜産課作成ver. 2
 詳しい情報は、「福岡県 鳥獣被害対策実践マニュアル」で検索

1 電気柵の設置場所について

- 見回りや草刈がしやすい場所ですか？ ⇨ 柵設置後の維持管理は、必須の作業です。
- 設置場所は、斜面（もしくは斜面と農地際）ではありませんか？ ⇨ 飛び越えて侵入されます。作付けを減らしてでも農地側に設置しましょう。
- 柵周辺に実のなる樹木（ドングリや柿等）はありませんか？ ⇨ イノシシを寄せ付ける要因となりますので、伐採しましょう。
- 柵から作物・果樹が出ていませんか？ ⇨ 柵から稲穂や実がでていと柵を破壊してでも侵入しようとします。
- 河川や水路からの侵入対策はできていますか？ ⇨ 河川や水路を通してイノシシが侵入してきますので、しっかり防ぎましょう。

2 電気柵の設置方法について

- 電線の下段は、凹凸のある場所でも必ず20cmとなっていますか？
- 柵は、舗装道路（コンクリート・アスファルト）から50cm以上離れていますか？
- 支柱は内側、ガイシは外側に設置していますか（常に電線が動物側にありますか）？
- アースは、地中30cmよりも深く、何本かある場合には、間隔を2m開けていますか？
- 周囲の人から容易に確認できるように危険表示をしていますか？
- 電気柵用パルス発生装置を使用していますか？
- 30V以上の電源を使用していませんか？ 使用する場合は漏電遮断器が必要です！



3 電気柵の維持管理について

- 集落で役割分担（全体責任者、見回り当番など）のルールが出来ていますか？ また、漏電防止のため定期的に草刈を実施していますか？ ⇨ 雑草による接触等により漏電が起きるので頻りにチェックしましょう。
- 1週間に1~2回は、電気柵を張った周囲を点検し、電圧チェッカーで4,000V以上あることを確認していますか？ また、危険表示は脱落していませんか？ ⇨ 通電していない電気柵は、怖くないものと動物に認識させ、電気柵の効かない動物となり周辺にも多大な影響を与えます。
●電気柵を設置しているときは、必ず通電させること！
- 栽培終了後にも電気柵に通電もしくは撤去していますか？ ⇨ 冬期のヒコバエ(2番穂)はイノシシやシカの絶好の餌となり、個体数増加の要因となります。
●稲刈後ヒコバエが発生するまでに必ず耕起しましょう！
●また野菜収穫残さも働き込みましょう。
- 冬期になっても対策を継続していますか？ ⇨ 冬期の畦畔や道路脇の雑草（青草）は、餌不足で困っているイノシシやシカの重要な餌となります（イノシシも青草を食べることに注意）。
●9月半ばから11月の草刈は、雑草の再生を助長するので、この間の草刈は必要最小限にしましょう。
●山に餌の少ない秋~冬期こそ対策を継続し、イノシシやシカを兵糧攻めにしよう！

